

2010年11月11日

三菱重工業株式会社  
双日株式会社

タタルスタン共和国向け大規模肥料プラント建設プロジェクトを10億ドル強で受注  
アンモニア・尿素・メタノール併産タイプでは世界最大級  
中国化学工程集团公司と共同で

三菱重工業株式会社（本社：東京都港区 社長：大宮 英明）と双日株式会社（本社：東京都港区 社長：加瀬 豊）は、中国化学工程集团公司（China National Chemical Engineering Corporation：CNCEC 本社：北京市 総経理：陸紅星）と共同で、ロシア連邦タタルスタン共和国の合資会社 Ammoni 社（Joint Stock Company Ammoni）から、アンモニア/メタノール併産の大規模な尿素肥料プラント建設プロジェクトを受注した。受注総額は10億ドル強で、正式な契約調印は11月13日に行われる。ロシアでの新規大型肥料プラントの建設は、1991年以降20年ぶりとなる。

今回の尿素肥料プラントは、モスクワ東方約1,000kmに位置する同共和国のメンデレエフ市に建設される。天然ガスを原材料として、アンモニアとメタノールを併産することが可能なプラントで、併産タイプとしては世界最大級。製造能力はアンモニア単独で日産2,050トン、併産で同1,382トン、メタノール668トン。ハルダー・トプソ（デンマーク）、サイペム（イタリア）、ウーデ・ファティライザー・テクノロジー（オランダ）の化学プロセス技術を採用する。生産開始は2015年の計画。

今回の受注は、基本・詳細設計、機器調達、建設工事を含む、ロシアでは異例のEPC（設備一括請負）契約。このうち、三菱重工業はコンソーシアムのリーダーとして基本・詳細設計、機器調達、据付・試運転指導員派遣を手掛け、双日はロシアでのビジネス実績を生かして関係者間の調整や輸送業務などを担当する。CNCECは建設工事を担当。

Ammoni社は、このプロジェクトを推進するために2006年、タタルスタン政府とロシア開発対外経済銀行（VEB）が出資して設立した政府系事業会社。

また、CNCECは中国国務院直轄の建設・エンジニアリング大手。傘下に設計・建設会社を持つ。

肥料は世界的な人口増加に伴う食料増産の流れから、今後も安定的な需要の増加が見込まれている。世界第一位の天然ガス産出国であるロシアでは、天然ガスの高付加価値化や産業の発展、農業の振興への寄与といった観点から肥料分野への関心が高まっているが、タタルスタン共和国でのプラント建設はこうした流れの一環。今回の受注は、三菱重工業がマレーシアで手掛け順調に稼働している同じ併産タイプの肥料プラントの実績が高く評価されたことに加え、双日がタタルスタン共和国と包括協定を締結して協力関係を築いてきたことによる。

ロシアでは現在、20～30年前に建設された肥料プラントの更新需要を迎えているが、三菱重工業と双日は今回の大型案件獲得を機に、肥料プラント市場におけるプレゼンスを一層高めるとともに、ロシアをはじめとする世界各地での合成ガス・石油化学分野での継続受注を目指して積極的な営業を展開していく。

**【問合せ先】**

三菱重工業株式会社 社長室 広報・IR部 広報グループ/山本 03-6716-2168  
双日株式会社 広報部/加藤 03-5520-3188

以上